

2025年度事業計画(案)

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

はじめに

昨年度はお米をはじめ食品の高値がつづき、世界経済や気候危機などの影響もあり、このままでは物価高騰は今年度も納まる気配がない状況です。こうした社会状況のなか、とくに困窮世帯の生活困難はさらに悪化することが予想されます。フードバンクへの個人の食品寄贈が物価高から減っていて、支援食品の購入を余儀なくされています。

国内の食品ロス量は、事業系食品ロスの削減がすすみ、2030年までとした国の削減目標を達成していますが、それでも472万トンの食品がまだ食べられるのに廃棄されています。引き続き家庭からの食品ロス削減の啓発活動に取り組みます。＜参考＞食品ロスの現状 <https://www.no-foodloss.caa.go.jp/whats.html>

フードバンク狛江は、狛江市と「食料支援の連携に関する年度協定書」(2025年4月1日付)に基づき、今年度も必要とする食の支援を地域で支え合うことで、市民が食に困ることなく、少しでも安心して暮らせるよう、本事業を取り組んでいきます。

2024年度の事業計画は、国や行政の対応等により、不確定要素もありますが、事業別に基本的な方針として提案し、具体的には理事会決定により執行して行きます。

1、フードバンク事業

- 狛江市の生活困窮者自立相談支援に、食料提供を継続できる食品の確保に努めます。
- 子育て家庭への食料支援の拡充のために、必要な食品の確保を図ります。
- 非営利で活動する地域の福祉施設・団体に、少しでもその活動の支えとなるよう、ロス食品や未利用食品を活かして食品提供に努めます。またフードバンク活動への理解を広げる活動として進めていきます。
- イベントでのフードドライブは、「狛江市環境月間こまエコまつり」に参加し、食品寄贈を呼びかけます。
- 生活協同組合4団体(東都生協、パルシステム東京、コープみらい、生活クラブ生協)と連携を強め、フードドライブが実施される場合の協力や、イベント参加による食品寄贈を呼びかけます。
- 地域の企業・団体、市民に食品ロス削減を呼びかけ、フードドライブやフードバンクの周知広報、協力を求めています。
- 全国フードバンク推進協議会や東京都未利用マッチングシステム、東京都生協連、こどもサポート証券ネットなどのマッチングシステムを活用し、また直接つながっている企業・団体からの寄贈提案に、適切な受入れを図ります。

2、食のセーフティーネット事業

- 福祉相談課、生活困窮者自立相談窓口こまYELLとの連携を図り、食の支援を必要とする世帯に確実に食品を提供できるよう努めます。
- こまエールの行う学習支援や子ども若者政策課のひとり親家庭向け学習支援を受ける子どもたちに、勉強の励みとなるよう、お菓子や飲料の提供を年4回(夏休み、ハロウィン、クリスマス、春休み時期)実施します。
- 学校給食のない時期の子育て世帯への食料支援は、子ども若者政策課と連携したひとり親子育て応援と、学校教育課と連携して就学援助受給世帯に周知し、夏8月・冬12月・春3月に食品提供を実施します。
- お米等、寄贈食品の在庫状況により、子育て応援世帯を対象に、適宜「おすそ分けお渡し会」を実施します。
- スクールソーシャルワーカーやコミュニティーソーシャルワーカーをはじめ、地域の支援団体との連携関係を強めていきます。

- 電話や SNS などでの連絡のあった食料支援 SOS には、他都市の場合、該当する地域の行政や支援団体を紹介するとともに、必要と認められる場合、一回のみを基本に支援対応をしていきます。市内はこまYELLにつなぐ。

3、フードバンクの普及・啓発事業

- 10月食品ロス削減月間に、食品ロス削減とフードバンク活動への理解を深めて行く取り組みを行います。
- 繋がった子育て世帯に、子育て応援として食料支援だけでなく様々な体験会や見学会等を通じて少しでも親子と親同士の交流も図るよう努めます。
- ホームページ、facebook、X（旧 Twitter）などSNSの活用を積極的に行う。また、紙媒体によるニュースレターを年4回発行、チラシの作成・配布や新聞、テレビ、ラジオ、タウン誌による広報に努めます。

4、団体の持続可能となる組織運営と団体基盤の確立について

- フードバンクを持続可能な活動として行くために、地域の「食の分かち合い」のシステムづくりを諸団体とともに模索して行きます。
- 現状の事業規模を維持し、安定した持続可能な団体運営のため、役員や有償スタッフを配置できるよう財政基盤の確立に努めます。また必要な助成金・補助金を獲得していきます。
- 財政基盤の確立のため、連携団体や支援者への会員・賛助会員（個人・団体）の加入促進を図るとともに、地域の企業・商店への訪問活動による賛助と寄付の呼びかけを積極的に行います。
- 西野川事務所/倉庫と市庁舎作業所の活動を役員・事務局スタッフで中心的に担い、ボランティアの計画的な参加とフードバンク活動や食品取り扱いの担い手づくりを進めます。また、ボランティアの募集に取り組みます。
- スタッフとボランティア同士の繋がりを大切に、フードバンク活動をより知ってもらう研修を実施して行きます。
- 理事会・事務局・ボランティアの役割分担をして、団体員相互の協力で効果的な組織運営に努めます。
- 組織運営に関わる諸規程を引き続き整備し、事業運営の基本となる「食品提供・寄付ガイドライン」を策定していきます。
- 近隣フードバンクとの交流と連携を図ります。
- 来年度の法人化 10 周年に向けて企画検討を進めます。